

軽井沢バス事故の記録

首都大学東京 都市教養学部
人文・社会系 社会福祉学教室

はじめに

2016年1月15日(金)未明、長野県軽井沢でスキーツアーバスの転落事故がありました。乗員・乗客41名のうち15名が死亡、また生存した26名全員が負傷しました。

同バスに首都大学東京社会福祉学専攻の2年次男子学生5名が乗車しており、1名が死亡、4名が負傷する不幸な事態となりました。

同事故は、本学においてこれまで経験したことがない大きな事故であり、このような事故が起きるとは教職員の誰もが予想しておりませんでした。未来ある学生の命を奪い、また心身を傷つけた理不尽な事故に対して深い憤りを感じるとともに悲しみ、悔しさ、無念さを感じます。

私たちは、亡くなった学生に深い哀悼の意を表するとともに、ご遺族に心からお悔やみを申し上げます。私たちはいつまでも大切な本専攻の学生の一員としてこれからもともにいます。また負傷した学生は、懸命に治療をして復学を果たし、学業と学生生活を送っています。しかし自分が生き残り、自分が生き残ったことに持たなくてもよい後ろめたさを抱えることもあろうかと思えます。そしてスキーツアーに行った学生も行かなかった学生も心の中に亡くなった学生を背負い、そして亡くなった学生の想いを引き継ぎ、生きていくことになります。このことは、学生の方々も教職員も同じ想いです。ともにいる、そしてその想いを大切にこれからのそれぞれの歩みをしてくださればと考えます。

バス事故から2年。今年(2018年)3月、事故に遭った学生たちの学年は卒業の年です。事故に遭った学生(負傷した学生、亡くなった学生)もみなと一緒に卒業式・修了式を迎えます。

ここに事故発生から卒業まで、社会福祉学教室としてバス事故とどう向き合ってきたのかを振り返り、記録に残したいと考えます。

そこで、はじめに、事故の概要について、次いで、事故当初から卒業を迎えるまでの社会福祉学教室としての対応について述べ、そして最後に、事故で亡くなった学生の学びの記録を紹介します。

1 事故の概要

事故は、2016年1月15日(金)未明、乗客・乗員41人が乗車するスキーツアーバスが長野県軽井沢町で道路外側に転落したことにより発生しました。

スキーツアーを企画した旅行会社は「キースツアー」(東京都渋谷区)、そして運行バス会社は観光事業会社「イーエスピー」(東京都羽村市)でした。運行バス会社所有の観光バス(乗員2名)が14日(木)午後11時に乗客(39名)を乗車させ原宿(東京都渋谷区)を出発し、関越道、上信越道などを経由し、15日(金)午前7時30分ごろに斑尾高原ホテル(長野県飯山市)に到着する予定でした。

事故が起きたのは、東京・原宿を出発し3時間ほど過ぎた午前1時55分ごろ、上信越道の碓氷軽井沢インターチェンジから北西に約3キロ離れた長野、群馬の県境付近、バスは群馬から長野方面に向けて下り坂の緩いカーブを走行中、対向車線を横切ってガードレールを突き破り、道路外側の5メートル下の斜面に転落、横転しました。その衝撃でバスのフロントガラスが大破し、屋根の一部は潰れた状態になりました。車内にいた乗員・乗客はこのことにより死傷しました。消防による救急活動、医療機関によるドクターカー、災害派遣医療チーム（DMAT）が出動し、長野、群馬両県にある9つの病院に搬送されました。

乗員2名は死亡、また死亡した乗客13人全員が大学生でした。所属大学は、首都大学東京をはじめ首都圏を中心とする7大学で、皆が10代後半から20代の若者でした。また負傷した26名においても大半が大学生であり、転落の衝撃により負傷をしました。週末に実施される大学入試センター試験での休講期間を利用した旅行でした。

事故検証により、このバイパスは道路が整備されており、また事故を起こすほど急なカーブでもない道路でした。さらに事故の起きた時間の気温は零下3度で、現場に積雪はなく路面凍結もしていませんでした。しかし、事前の運行計画では事故現場を通る予定ではなかったこと（ルート変更をしていること）、また制限速度をオーバーしていたこと、大型観光バスの運転経験の乏しいドライバーが運転していたこと、運転ミスをしていたことなどがわかりました。

2 軽井沢スキーバス転落事故における教室対応の記録

2016年1月15日（金）午前、事故の一報が大学に入りました。大学として学長室、学生課、文系教務課等の事務職員と当該学生が所属する人文・社会系の系長、社会福祉学専攻教員数名が大学で情報収集に努めるとともに事務職員が事故現場に出向き実態把握と被害学生の入院先等を訪問しました。

また16日（土）社会福祉学専攻で臨時の教室会議を開催し、次の事項について話し合いました。事故に遭った学生の事実確認／初期対応体制の構築／現地での情報収集／お見舞い／連絡その他／一般学生への通知やサポート／学生相談室によるメンタルヘルス支援の役割分担／葬儀への参列／学内関係諸部門への告知／人社系への事実報告メール／人社系教授会での報告（1/21 予定）／学生委員会での報告（1/28 予定）／メディア対応、についてです。

1月17日（日）には大学入試センター試験の試験監督に当たっていない社会福祉学専攻の教員3名が現地入院先に出向き被害学生3名の入院先3箇所（長野県・栃木県）を訪問して、学生および保護者と面会し、状況把握に努めました。

1月18日（月）には、被害学生の情報収集に努めるとともに今後の対応策について相談協議をしました。また教室学生への事故の説明会の準備を行いました。

同日亡くなられた田原寛さんの通夜が大阪府吹田市にてとりおこなわれ、教員3名が学生とともに会場に出向き参列しました。

さらに学生対応として、次の文書を社会福祉学教室 HP に掲示しました。

2016年1月18日

首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系
社会学コース 社会福祉学教室

1月15日に長野県軽井沢町で発生したスキーツアーバスの転落事故により、本学社会福祉

学教室の2年生男子5名が被害にあい、うち1名が死亡したことに、学生教員とも教室一同大いに心を痛めています。つい前日まで、授業等で親しく接していた学生が亡くなり、また、重傷を負っていることは、私たち教員や学生でも受け入れがたいことであり、ましてご家族のお気持ちを思うと言葉ありません。

私たちは、今後、ご家族のお気持ちを尊重し、傷ついた学生の帰りを待ちながら、私たちの使命を継いでくれる学生とともに研究教育に一生懸命取り組んでいきたいと思ひます。それが故人の遺志にもかなうことだと思ひます。

なお、この間、事故についての報道が過熱するなかで、行き過ぎた取材や報道により、被害学生とご家族が大変心を痛めているようにも聞いています。マスコミ関係者のみなさんには、ぜひとも節度ある取材と報道をお願いいたします。

また、取材内容には、被害学生およびご家族のプライバシーにかかわる情報が含まれると思ひますので、学生諸君には、マスコミからの取材等には当面は一切応じないようお願いいたします。

1月19日(火)に田原寛さんの告別式に教員3名が参列・学生の引率／対応をしました。大学およびサークル等から献花を行いました。

また学生向けの説明会を開催(南大沢)いたしました(18日に予定していたものを大雪で19日に延期)。説明会は、次の内容で行いました。

<全体会>

- ・黙祷
- ・事実説明
- ・みなさん自身の心のケアについて(学生相談室)
- ・みなさんへのお願い(マスコミ取材対応。SNSへの投稿について)
- ・質疑応答

<2年生向けの会>

- ・被害にあった学生の状況について
- ・退院した学生を迎えるにあたって
- ・みなさん自身の心のケアについて
- ・田原君とのお別れ会について
- ・基礎ゼミや授業の対応について
- ・質疑応答

1月21日(木)臨時教室会議を開催し、次の事項について話し合いました。退院したものの通学できない学生への支援について／入院中の学生への支援について／個別に状況把握および連絡用の担当教員をつける／授業の欠席等に関する対応／受傷学生の諸手続き関連の対応-日本学生支援機構奨学金継続申請手続きについて→学生課へ依頼、米国短期語学研修のキャンセル対応について→国際課へ依頼、被害者支援情報の整理など、国交省の「公共交通事故被害者支援室」が動いていることの確認、学生に対して被害者支援都民センターの情報提供を行うことを決定／その後の学生の動揺などについて／お別れの会について／その他-事故関連記録の保存、についてです。

1月22日（金）～29日（金）の間、社会福祉学教室として、次のことを行いました。1月22日付けで「スキーバス事故における教務上の配慮について」文書が、全学共通科目について大学教育センター長名で、人文社会系専門科目については人文・社会系長名で出されました。そのほか、被害学生や保護者との面談、各教員の成績対応に関する情報集約、学内への報告および相談、お別れ会の準備などを行いました。

1月25日（月）に「田原寛さんを偲ぶ会」企画委員会を開催しました。社会福祉学教室学生が集まり企画準備をしました。

2月4日（木）に「田原寛さんを偲ぶ会」実行委員会を開催しました。社会福祉学教室のほか、学生サークル団体代表が集まり企画準備を行いました。

2月7日（日）に、死亡学生の2015年度後期成績評価の依頼文書を送付いたしました。

2月20日（土）14:00～16:00 本部棟大会議室で「田原寛さんを偲ぶ会」開催しました。会場に田原寛さんの写真を掲示、参加者は、両親、社会福祉学学部生、院生、サークル関係者（OTK、B類サッカー部、HANDs、暇人社の風）、教員、大学関係者（学長室、教務課など）その他関係者です。偲ぶ会では、司会を室田先生と学生が行い、両親提供のスライドショー（田原寛さんの成長記録）、田原さん所属団体（OTK、B類サッカー部）の挨拶、学生お別れの言葉、阿部先生手紙代読 系長挨拶 学長挨拶代読、両親が挨拶をしました。（偲ぶ会開催前に教務課で課長より田原さんの成績一覧を渡しました。）

田原寛さんを偲ぶ会

2016年2月20日（土）

14:00～16:00

首都大学東京 南大沢キャンパス

本部棟大会議室

開場（14:00）

0. 写真の展示とスライドショー上映

開会（14:30）

司会：今野優紀さん

1. ご両親より生い立ちの写真紹介（パワーポイント写真10枚ほど）

2. 学生代表からの言葉

社会福祉学学生	松島凌平くん、直江立基くん 村本拓夢くん 佐藤航くん（横井奈緒さんによる手紙代読）
HANDs	岡本愛香さん
暇人社の風	藤田恭輔くん

B 類サッカー	小野紘一郎くん
OTK	中村俊大 (としひろ) くん

3. 教員からの言葉

阿部彩先生 (堀江孝司先生による手紙代読)、長沼葉月先生

4. ご両親よりごあいさつ

閉会 (16:00)

3月19日(土)に13時～15時 田原寛さんの両親に学習成果資料の説明と返却をしました。

4月8日(金)に重体だった学生が両親と登校し、授業に復帰しました。

5月 被害にあった学生に対する NHK の取材について、今後の対応を含めて協議をしました。

11月 大学祭に田原さん両親が来校しました。

2017 年

2月5日(日) 実習報告会および「田原さんのご両親を囲む会」開催しました。

<実習報告会>

時間：13時～14時45分

場所：5号館142教室

司会 阿部先生

6名の学生による実習報告

教員による「田原君の実習にむけての取り組み」報告

学生からのコメント

実習報告総括

田原さん父上よりお言葉

<田原さんのご両親を囲む会>

時間：15時～

場所：5号館134教室

司会 矢嶋先生

ごあいさつ 田原さんお母様

閉会 岡部先生

7月に田原寛さん父親より「1.15 サクラソウの会」のWEB署名の依頼があり、教室で共有しました。

11月4日(土)大学祭に田原寛さんの両親が来校し「1.15 サクラソウの会」の署名活動とともに行いました。また、系長、社会福祉学教室教員と両親で今後のこと(卒業式等)について話し合い

ました。

2018 年

3 月 22 日（木）平成 29 年度卒業式

11 時 30 分 首都大学東京卒業式（文系）

14 時 記念植樹

15 時 人文社会系卒業証書授与式

18 時 卒業パーティー・謝恩会

田原寛さんご両親来校

軽井沢スキーバス転落事故における教室対応の記録

日 時	事 項	対 応
2016 年 1 月 15 日（金） 午前 1 時 55 分頃	【事故発生】 ・ 社会福祉学教室所属の 2 年次学生 5 名 が被害 （1 名死亡、1 名重体、1 名重傷）	・ 大学職員が現地に行き警察から情報収 集 ・ 被害学生の入院先を訪問 ・ 教員数名が大学にて情報収集
1 月 16 日（土）	【臨時教室会議】	・ 事実確認 ・ 初期対応体制の構築 ・ 現地での情報収集、お見舞い、連絡そ の他 ・ 一般学生への通知やサポート ・ 学生相談室によるメンタルヘルス支援 との役割分担 ・ 葬儀への参列 ・ 学内関係諸部門への告知 人社系への事実報告メール 人社系教授会での報告（1/21 予定） 学生委員会での報告（1/28 予定） ・ メディア対応について
1 月 17 日（日）	【教員による入院先訪問】	・ 教員 3 名が被害学生の入院先 3 箇所（長 野県・栃木県）を訪問 ・ 学生および保護者と面会し、状況把握
1 月 18 日（月）	【社会福祉学教室 HP へ文書掲示】 【田原寛さん通夜】 ・ 大阪府吹田市	・ 情報収集、対応策の相談 ・ 教室学生への説明会の準備 ・ 教員 3 名が参列および学生対応
1 月 19 日（火）	【田原寛さん告別式】	・ 教員 3 名が参列・学生の引率／対応 ・ 大学およびサークル等から献花

	<p>【学生向け説明会（南大沢）】 ＜全体会＞</p> <p>＜2年生向けの会＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黙祷 ・事実説明 ・みなさん自身の心のケアについて（学生相談室） ・みなさんへのお願い（マスコミ取材対応。SNS への投稿について） ・質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> ・被害にあった学生の状況について ・退院した学生を迎えるにあたって ・みなさん自身の心のケアについて ・田原君とのお別れ会について ・基礎ゼミや授業の対応について ・質疑応答
1 月 21 日（木）	<p>臨時教室会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院したものの通学しない学生への支援について ・入院中の学生への支援について、個別に状況把握および連絡用の担当教員をつける ・被害者支援情報の整理など ・授業の欠席等に関する対応 ・受傷学生の諸手続き関連の対応 ・その後の学生の動揺などについて ・お別れの会について ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本学生支援機構奨学金継続申請手続きについて→学生課へ依頼 ○米国短期語学研修のキャンセル対応について→国際課へ依頼 ○国交省の「公共交通事故被害者支援室」が動いていることの確認 ○学生に対して被害者支援都民センターの情報提供を行うことを決定 ○事故関連記録の保存
1 月 22 日～29 日	<p>「スキーバス事故における教務上の配慮について」文書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学共通科目について大学教育センター長名で、人文・社会系専門科目については人文・社会系長名で出される。 ・被害学生や保護者との面談 ・各教員の成績対応に関する情報集約 ・学内への報告および相談 ・お別れ会の準備
1 月 25 日（月）	<p>【田原寛さんを偲ぶ会】企画委員会】</p>	<p>社会福祉学教室学生</p>
2 月 4 日（木）	<p>【「田原寛さんを偲ぶ会」実行委員会開催】</p>	<p>社会福祉学教室のほか、学生サークル団体代表</p>
2 月 7 日（日）		<p>死亡学生の 2015 年度後期成績評価の依頼文書の送付</p>

軽井沢バス事故の記録

2月20日（土）	【「田原寛さんを偲ぶ会」】	日 時：2016年2月20日（土） 午後2時～午後4時 会 場：本部棟大会議室 参加者：両親、社会福祉学学部生、院生、 サークル関係者（OTK、B類 サッカー部、HANDs、暇人社 の風）、教員、大学関係者（学 長室、教務課など）その他関係 者 偲ぶ会開催前に教務課で課長より田原さ んの成績一覧を渡す。
3月19日（土） 13時～15時		両親に学習成果資料の説明と返却
4月8日（金）		重体だった学生が両親と登校し、授業に 復帰
5月		・被害にあった学生に対するNHKの取 材について ・今後の対応を含めて協議
11月	【大学祭】	田原さん両親来校
2017年 2月5日（日）	【実習報告会】 時間：13時～14時45分 場所：5号館142教室 司会 阿部先生 【「田原さんのご両親を囲む会」】 時間：15時～ 場所：5号館134教室 司会 矢嶋先生 ごあいさつ 田原さんお母様 閉会 岡部先生	＜実習報告会＞ 6名の学生による実習報告 教員による「田原君の実習にむけての取 り組み」報告 学生からのコメント 実習報告総括
7月		田原寛さん父親より「1.15サクラソウの 会」のWEB署名依頼があり、教室で共 有する。
11月	【大学祭】	田原寛さん両親来校 「1.15サクラソウの会」の署名活動をと もにおこなう。
2018年 3月22日（木）	【平成29年度卒業式】 11時30分 首都大学東京卒業式（文系） 14時 記念植樹 15時 人文・社会系卒業証書授与式 18時 卒業パーティー・謝恩会	田原寛さん両親来校

<参考>

事故当初において、全学会議である学部長・系長懇談会（2016.1.19）、教育研究審議会、そして人文・社会系教授会にて、次の報告を人文・社会系長から口頭報告が行われました。

□学部長・系長懇談会報告 軽井沢バス事故について 2016.1.19

- 報道にてご存知のことと思いますが、1月15日午前1:55頃 軽井沢スキーツアーバスの転倒事故がありました。15名が死亡、残りの26名が負傷しました。本学人文・社会系社会福祉学教室の2年の男子学生5名が同乗しており、1名が死亡、4名が重軽傷を負いました。
- この件に関して、大学側の対応として、同日現地に事務職員の方々が出向き実態把握と対応してくださいました。大学では学長室、学生課、教務課、文系事務の方々とそこに関わる教員の方々が遅くまで連日遅くまで遺漏のない誠実な対応をして下さいましたこと人文・社会系として感謝申し上げます。このことに関して被害に遭われた学生、保護者の方々から、御礼の言葉を頂きました。本当にありがとうございました。
- 一昨日、センター試験の試験監督に当たっていない社会福祉学教室3名の教員が現地で入院先に面会に行きました。また昨日、本日の通夜、告別式に4名の教員と学生10名前後が会場である大阪に行きました。
- また学生の動揺も大きいこともあり、昨日、本日と学生説明会を行っております。助かった学生、そして被害に遭われた学生のメンタルケアと卒業までの学びと生活の保障、その後フォローを行っていきたいと考えます。
- 一昨日、亡くなられた学生の親御さんとお電話で30分余お話を致し次の言葉をいただきました。
 - ・子どもが亡くなったことは無念である。子どもが一番生き生きとしていたのが首都大学の学びと友人たち・大学の交流であった。
 - ・また大学が現地で対応してくれたこと、また新聞で息子のことをよく話してくれたことをうれしく誇りに思います。感謝している。
 - ・子どもがこのようなことになりましたが、事故に遭われた他の学生の方々、そして一緒に学んでいる学生は、子どもの分まで生きてほしいこと、伝えてほしい。
 - ・子どものことを知りたいのでお別れの会を開き子どもにメッセージを送ってほしい。この件、教室でお別れの会を開催する予定としています。
- メディアが殺到していますので、その点、昨日文系事務、学長室とご相談させて学内掲示と電話対応をさせていただいております。私的事故ではありますが、大学としての最大限の対応をお願い致します。

□教育研究審議会<部局報告>

- バススキー事故で亡くなられた田原寛さんの偲ぶ会（2016.2.20 本部棟大会議室 14:00～16:00）に75名の参加がありました。当該教室の学生、3つのサークルに入っておりましたのでその学生と教職員が出席しました。御両親が成長の記録をスライド上映、学生たち、教員の贈る言葉、そして学長からの心のこもった言葉を私が代読させて頂き、そして皆で黙祷、最後に御両親の御挨拶がありました。
- 本学の学生は、本当によい学生が集まっています。

今回は課内・課外授業ではなく私的活動で事故に当たりますが、当該学生・教室はもとより大学は

自分たちのことをこれだけ誠心誠意対応してくれている姿勢がわかる働きかけを今後も引き続き行っていきたいと考えます。

□ 2016.1.21 第 11 回人文・社会系教授会

・ 悲しいお知らせです。報道にてご存知のことと思いますが、1 月 15 日午前 1:55 頃 軽井沢スキー ツアーバスの転落事故がありました。15 名が死亡、残りの 26 名が負傷しました。本学人文社会系 社会福祉学教室の 2 年の男子学生 5 名がバスに同乗しており、1 名が死亡、4 名が重軽傷を負いました。この件に関して、部局長懇談会で報告をさせていただいております。社会福祉学教室で、引き続き学生のメンタルケア、教育のサポート等をお願い致します。

亡くなられた田原寛（たはら かん）さんは 19 歳という若さで早すぎる別れとなりました。ここで皆さんと哀悼の意をささげたいと思います。黙祷
－ ありがとうございました。

3 2015 年度社会福祉援助技術演習における田原寛君の学びの記録

首都大学東京都市教養学部人文・社会系は 2 年次から専攻分野を選択するため、社会福祉学分野の専門教育は実質的には 2 年次から開始します。2 年次では必修科目として社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱ（養成課程における）が前期と後期におかれ、これと並行して選択科目の社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱがおかれています。この演習は、選択科目ながら、3 年次の相談援助実習を履修するためには必須の科目であり、前期のⅠでは見学や基礎実習など体験的学習によって社会福祉の実践に少しでも触れる機会をつくることを目標とし、後期のⅡではソーシャルワークの基本技法を演習によって身につけるなかで、3 年次の実習に向けて基本的態度を修得しながら実習計画についても学習しています。

田原寛君は 2015 年度にこの演習授業を履修し、後期の授業も最後の 2 回を残してほぼ大半の課題を修得しています。この演習授業では、ほぼ毎回、授業後の振り返りのコメントを記入提出してもらったり、e-learning を通じてさまざまな課題を提出してもらっているため、田原君についても提出課題が豊富に存在しました。そこで、2 年次の演習授業における田原君の提出課題等の一部をここに記録することで、田原寛君の本分野での学習の記録として紹介します。

それでは、2015 年前期の社会福祉援助技術演習の初回授業を振り返ります。この授業では、「社会福祉援助技術演習」とは「相談援助の演習」だと解説し、相談援助つまり社会福祉士の仕事とは何か、新 2 年生予備知識のない状態で各自に答えてもらい、それを学生同士で共有するグループワークをおこないました。以下は田原君が書いた意見です。

2015 年 4 月 8 日 水曜 2 限

社会福祉援助技術演習Ⅰ 初回授業 (担当 杉野)

「社会福祉援助技術」＝「相談援助＋演習」って何だろう？

社会福祉士の職場	市役所、社会福祉協議会、病院、施設
相談援助業務	生活保護の申請をした人を審査して認定するか決める
社会福祉士に必要な価値	正義感・倫理観、困っている人を助けよう
社会福祉士に必要な知識	社会福祉系の法制度
社会福祉士に必要な技術	個々に合わせた問題解決

社会福祉士の職場としては市役所と社会福祉協議会をあげ、相談援助業務としては生活保護の支給手続き、社会福祉士の価値と知識と技術についてはご覧のような回答をしています。社会福祉分野に配属されたばかりの新2年生としては、かなりの予備知識がうかがえます。おそらく田原君は1年次から社会福祉に関心をもって勉強していたと思います。

この授業の最後には、あるホームレス支援団体の活動を描いたビデオを視聴してもらいました。これについて田原君は次のような感想を書いています。

“最後に見たビデオが特に印象的で、苦労はあると思うがすごくやりがいのある仕事だと思った。”

2015 年度前期 2 回目の演習授業では、長沼先生がコミュニケーションゲームを使って SW にとってとても重要な自己覚知と他者理解について実践する授業でした。ハイタッチというのは、自分の気分に合わせてハイタッチに使う指の本数を変えろというコミュニケーションゲームです。無理をして常に5本指である必要はありません（多様性の尊重）が、元気がなくて初めは1本指でハイタッチしていた人も色々な人とハイタッチを重ねていくうちに変化していく、ということを体感的に実感できるゲームです。他にも絵カードや体の動きを使ったワークを通じて、コミュニケーションを構成する要素は言語だけではなく身体やイメージなどを駆使していることを実感してもらいました。田原君はこの演習のリアクションペーパーでは、ワーカーに必要な自己覚知能力の萌芽を示していると思います。

2015 年 4 月 15 日 水曜 2 限

社会福祉援助技術演習Ⅰ 2 回め授業（担当 長沼）

自己覚知と他者理解のワーク

	自分について	他者について
ハイタッチ・	指を広げることによって気分が上がって いくような気がした	五本指を合わせてくれる方が受け止 めてくれる気がしてうれしい
言葉とイメージ	イメージをうまく言葉で説明する のは難しかった	自分のイメージと他者のイメージが違 うことが改めてわかった
身体コミュニケーション： 相互交流ゲーム	人と人が対面するのは思ってい たよりも緊張感があった	他者が自分の動きに合わせて動く と、うまく意思疎通がとれているように 感じた

前期の演習ではソーシャルワークの現場を訪問して支援者から生の声を聞いたりする見学実習をおこないました。2015 年度の見学先は小規模多機能事業所、婦人保護施設、障害者就労支援事業所などでしたが、田原君は横浜市の黄金町風俗街の再開発にかかわる二つの団体を見学訪問しました。以下は見学時の田原君の感想です。

2015 年 5 月

社会福祉援助技術演習Ⅰ「見学実習」参加体験報告（担当室田）

■かながわ女のスペースみずら

“法律や制度といった専門知識も確かに大事だけど、一番重要なのは一人の人間と向き合うという姿勢だという話が頭に残った。社会福祉に関わる上で重要な支援者の心構えのようなことを話して頂いて非常に有難かった。”

■黄金町エリアマネジメントセンター

“なぜ違法売春街だった場所をアートの拠点にしようとしているのかという質問に対して、「金もうけを目的としない芸術にこそ、黄金町エリアを再生することにおける意義があるのだ」という回答が印象的だった。街を活性化させるという点では、広い意味での地域福祉としてとらえることができると感じた。”

田原君が「一人の人と向き合う姿勢」や「金もうけを目的としない」といった支援者の肉声に強い印象を受けている様子が見えます。

6 月には京王永山の障害者団体「自立ステーションつばさ」のみなさんに協力いただいて車いす利用・介護等体験学習を例年おこなっています。ここでは田原君は介護される側が感じる緊張や恐怖を体験して介護者との信頼関係が大切であり、そのために一つ一つの動作の前の声掛けが必要なのだと述べています。

2015 年 5 月 27 日 社会福祉援助技術演習Ⅰ (担当 和気・杉野)

「車いす利用・介護等体験実習」(自立ステーションつばさ)

“乗る側になった時に強く印象に残っていることは、段差を乗り越える際などに前輪を上げて車体を持ち上げるのだが、車いすに乗っている自分の身体も大きく傾いて、このまま倒れてしまうのではないかという恐怖を少なからず感じた。それを少しでも和らげるためには何といたっても運転する側とされる側の信頼関係が重要で、動作の一つ一つを確認してから行うといった細かいことから築き上げていくものなのだと感じた。”

また、車いす体験学習の際は、授業での気づきのほか、「来年に向けての改善点」などあれば書いてもらっているのですが、田原君は「90 分の一回の授業で終了するというので限られたことしかできなくて、つばさの方々も残念そうだったのは気がかりだった。」と書いてくれました。田原君のこの意見に基づいて、2016 年度は、2 時間目の演習授業のあと、3 時間目の障害福祉論も使って、つばさのみなさんとお話する時間を設けました。これは田原君の意見によって改善したものです。

続いて 6 月 24 日の演習授業では、学生同士で地域住民とコミュニティワーカーの役に分かれて地域の問題を解決するロールプレイをしました。ここでは田原君は相談者の支援者に対する目線を強く意識しています。相談援助専門職としての自己覚知能力の高まりを感じます。

2015 年 6 月 24 日 社会福祉援助技術演習Ⅰ (担当 室田)

「地域社会のニーズ：コミュニティワークのロールプレイ」

“共感すること、ちゃんと耳を傾けることは大事だと頭でわかっているけど、徹底することは難しい。でも相談者はそこを逐一見ているとわかった。”

その人の話を聞くことによって、強みを引き出すというのを初めて体験したが本当に難しく感じた。”

夏休みには、3 日間の基礎実習をおこないました。田原君は 9 月下旬にサービス付高齢者住宅のジュリナ大塚に実習に行き、後期の演習の最初の授業で報告してくれました。

2015 年 10 月 7 日 社会福祉援助技術演習Ⅱ (担当 長沼)

「基礎実習 (ジュリナ大塚 3 日間) の振り返り」

■良かったこと

傾聴を通して利用者の生の声を聞くことができたこと。ケアマネージャーの方から業務について説明をしていただき、実際の相談の現場を見ることができた。施設に併設されている様々な機能について知れた。

■がんばったこと

利用者の声に耳を傾け、その人たちの物語に触れることで、求められているニーズは何なのか考えた。

■反省

事前学習を深めておけば、より深い洞察や疑問が生まれたかもしれない。

「がんばったこと」として、「高齢者の利用者さんの声に耳を傾け、その人たちの物語に触れることで、求められているニーズは何なのか考えた。」と述べています。高齢者福祉においては、一人ひとりの利用者には長い人生があり、その人の人生の物語（ライフストーリー）のなかで日々の生活やニーズを考えなければならないと言われています。田原君は、そのことを基礎実習のなかで少しでも実感しようとしていたのだと思います。

後期2回目の授業は、3年生の実習報告でした。当時の3年生が当時2年生だった田原君たちの前で自分たちが経験した実習について語り、2年生の実習先の選択の参考となる情報を与えるための授業です。この授業の最後に田原君は次のように書いています。

2015年10月14日 社会福祉援助技術演習Ⅱ（担当 和気）

「本実習参加者（3年生）の報告・実習先紹介」

“今年実習に行ったばかり、あるいは、実習中の先輩の話聞くことで来年の実習のイメージができた。当初自分の関心が薄い実習領域に配属されたが、そこでの経験を積むことで問題意識を深めることができたという話を聞き、自分も先入観をなくして、幅広い分野に関心をもつことが重要だと思った。”

何よりも事前の準備と学習が大切だと改めて感じたので、その姿勢を忘れずに来年の本実習に臨んでいきたい。”

後期の演習授業では、実習先を選び、実習計画書を作成すると同時に、ソーシャルワークの技法をより専門的に学びます。絵だけのカルタを使って他者との交流を行うコミュニケーションゲームを行った後、田原君は以下のような感想を残しています。

2015年10月28日 社会福祉援助技術演習Ⅱ（担当 長沼）

「マイクロレベルでのソーシャルワークの展開1」

“相手に自分の意図を伝えたり、逆に相手の考えをくみ取ったりすることが、想像よりもはるかに難しいことを今回のゲームをしてみてわかった。”

とくに自分は比較的、他人に興味がないタイプの人間なので、援助技術では努力する必要があると感じた。”

ここで田原君は「とくに自分は比較的、他人に興味がないタイプの人間なので、援助技術では努力する必要があると感じた。」と述べています。自分の社会福祉士としての適性を客観的にとらえ始めた様子がうかがえます。

ソーシャルワーク技法の最後の授業では実際の利用者との面談場面を演習しました。教員らによるデモンストレーションの後、学生同士で面談の困難場面を再現したロールプレイをした田原君の感想です。非常に適切に面談場面を客観的にとらえつつ、的確な対処方法に気づいています。

2016年1月6日 社会福祉援助技術演習Ⅱ（担当 長沼）

「マイクロレベルでのソーシャルワークの展開2」

“泣いている人には、こちらが感情移入してしまって、話が聞き出せず、不機嫌な人には圧倒されてしまった。どちらも感情をむき出しにしている相手であり、どれだけそれにのみこまれずに事実に基づいた話や、これからのことについて述べていけるかが重要だと思った。”

また、この授業のまとめとしての感想では、田原君は相談支援における信頼関係構築の重要性に着目しています。

“どんなにこいつはひどい奴だと思っていっても、関係を築けなければ支援は始まらない。なので、いかに、この人なら話しても大丈夫だという信頼をもっていけるかが大事だと思った。”

田原君の2015年度の演習授業を振り返って。彼が本来もっていた人間同士のつきあいや信頼関係の大切さという個人的信条が、ソーシャルワークの専門技術の学習のなかで、職業倫理や専門性へと発展してきた様子がうかがえます。相談援助実習の事前学習の段階で、すでに実習課題のいくつかを達成していた田原君が、3年次の実習でどこまで課題を達成できたか見られなかったことは教員一同残念でなりません。